

企業と社会

1. 課題

「企業」と「社会」という二つのキーワードを念頭に置いて、テーマを自由に設定して報告しなさい。これが基礎セミナーの最後の課題になります。

2. 課題の要点

この課題のポイントは2つあります。第一は、「企業」をどのように取り上げるかという点です。たとえば、パナソニックや資生堂といった個別企業を取り上げたり、あるいは電器産業とか化粧品業界というように産業や業界をまとめて取り上げることもできます。また、同じ業界内の二社を比較するのも魅力的なやり方です。その他にもいろいろな取り上げ方があると思います。

第二は、「社会」という言葉を限定して用いることです。このセミナーで学んだように、企業（経営者）の意思決定に影響を及ぼす／及ぼされる個人や団体（ステイクホルダー）を考えると、「社会とのかかわり」を具体的にイメージすることが出来るでしょう。

以上要するに、「企業」と「社会」という言葉を誰にもわかるように説明して用いるならば、どのようなテーマを設定してもよいということです。学生諸君の創意工夫を期待しています。

調査に際しては、検討範囲を自分の問題関心に即して狭く限定することがとても大切な作業になります。あまり範囲を広げすぎると、收拾がつかなくなりますよ。

3. 調査の仕方

企業のウェブサイト、会社四季報、研究書など、なにを参考にしてもよいですが、以下の点に注意してください。

(1) 異なる見解の存在が予想されるテーマについては、企業側の資料だけに頼らず、かならず第三者の評価を比較検討すること。ウェブサイトの丸写しは減点の対象になります。

(2) 報告の際には参考文献一覧をハンドアウトに載せることになります。それをつねに念頭において、調査の時に発見した資料の書誌情報やウェブサイトのURLを必ずメモしておく習慣をつけてください。後から調べ直そうとすると、二度手間になるだけでなく、時には引用個所が見つけれないこともあります。脚註および参考文献書式は、この文書の最後にまとめてあります。

4. 報告の仕方

報告はグループで行いますが、一人ひとりの貢献がわかるような報告が期待されています。報告に際しては、ハンドアウトを用意してください。パワーポイントを併せて使うとさらによいでしょう。

報告会を効果的に組織することも各グループに任されています。司会の担当など、あらかじめ準備しておくように。質疑を導くのも司会の役目です。

各グループに1回の授業時間が与えられます。その時間を有効に使うことがとても大切です。報告内容が貧弱だと時間をもてあましてしまうことになります。

報告の際の言葉づかいに注意してください。企業のウェブサイトを引用してきただけの報告にありがちなのですが、企業人の言葉づかい（たとえば、「お客さま」「市民のみなさま」「ご理解いただく」など）をそのまま用いることのないように。

5. 視聴者のすること

報告を聴いた学生は必ず質問やコメントを用意すること。報告の内容だけでなく、報告会の組織の仕

方についてコメントするのもよいです。

6. 脚註・参考文献書式

資料の引用に際しては脚註をつけて、必ず出典を明らかにしてください。また、報告書の最後には、参考文献一覧を載せること。

引用書式を以下に例示します。脚註の場合と巻末に載せる参考文献表の場合とで、表示方法が異なります。これらはいずれも約束事ですから、そのまま真似てください。

面倒がらずに必ず実行してください。出典のない引用は著作権の侵害となりますし、時には盗作との嫌疑をかけられることとなります。引用書式に則っているかどうかは、基礎セミナーの成績評価にかかわっているのはいうまでもありませんが、今後、大学や社会で研究調査活動を行う際の基本的な作法ですから、ちゃんと身につけてください。

脚註の場合：

シモーヌ・ヴェイユ『自由と社会的抑圧』富原真弓訳(岩波書店, 2005), 125-27. [著者名、書名、出版社、出版年、この4つをスペースを空けずに記すこと。末尾の数字は引用ページ数です。最後のピリオドを忘れずに。]

島田晴雄『労働経済学のフロンティア』(総合労働研究所, 1977), 79-80.

ロザベス・モス・カンター「ドラッカーから学ぶべきこと」『Diamondハーバード・ビジネス・レビュー』34 (December 2009): 13. [雑誌論文を引用する場合、論文タイトルを括弧に入れ、雑誌名は二重括弧でくくります。雑誌の出版年を丸括弧でくくり、セミコロンを挟んで、引用ページ数を添えます。]

H. オーフエルベーク「グローバリゼーションとイギリスの衰退」川北稔訳、『経済衰退の歴史学』R. イングリッシュ、M. ケニー編(ミネルヴァ書房, 2008), 333-45. [書物の中の論文を引用する場合]

Apple Inc., "Facilities Report: 2009 Environmental Update," http://images.apple.com/jp/environment/reports/docs/Apple_Facilities_Report_2009.pdf (アクセス日: 2010年3月27日), 3. [この資料はアップル社のウェブサイトに掲載されている環境報告書です。(1) 資料のタイトル、(2) URL、(3) アクセスした日付、この三つが記されていることに注目してください。最後の数字は引用ページ数です。サイトによってはページ数が記していないこともあります、そのときは記入不要です。]

参考文献表の場合：

(参考文献表を作るときは、著者の姓名の順が脚註の場合と異なります。下の例示をよく見て真似てください。ピリオドの位置にも注意してください。細かいことをいうようですが、「神は細部に宿る」このことをお忘れなく。)

ヴェイユ, シモーヌ. 『自由と社会的抑圧』富原真弓訳. 岩波書店, 2005.

島田晴雄『労働経済学のフロンティア』総合労働研究所, 1977.

カンター, ロザベス・モス. 「ドラッカーから学ぶべきこと」『Diamondハーバード・ビジネス・レビュー』34 (December 2009): 10-18. [最後のページ数は論文の掲載ページです。雑誌の10~18ページにこの論文が掲載されていることを示しています。]

オーフェルベーク, H. 「グローバリゼーションとイギリスの衰退」川北稔訳、『経済衰退の歴史学』R. イングリッシュ、M. ケニー編. ミネルヴァ書房, 2008.

Apple Inc. "Facilities Report: 2009 Environmental Update." http://images.apple.com/jp/environment/reports/docs/Apple_Facilities_Report_2009.pdf (アクセス日: 2010年3月27日).